



昭和2年7月7日創立

世田谷区立東大原小学校

同窓会報

平成25年度 第1号
(平成25年7月発行)

発行所
世田谷区大原1-4-6
東大原小学校同窓会

発行人
野地勝彰

会長就任に当たって よろしくお願いいたします

同窓会会長 野地勝彰 (二十四回生)

東大原小学校同窓会は、小学校としてはすぐく活発に活動している同窓会です。これも歴代の会長始め役員の方々の献身的なご努力と、多くの会員諸兄弟からの財政上のご協力があつてのことと感謝いたします。このたび会長を仰せつかりました私も、微力ではありますがこの同窓会をこれからもますます発展させるように努力をしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



四月の総会では、何十年ぶりに幼友達と再会された方や、疎開の時の写真をお持ちいただいた方もいらっしゃいました。こういう嬉しいことがおきるのも同窓会ならではのです。

同窓会の目的は、会則にあるように「会員相互の親睦と母校の発展」を図ることです。そのために親睦旅行や母校への寄贈など四ページの事業報告にあるようにいろいろのことを実施してきました。

同窓会は、こうしたいろいろな新しいことをすることによって活動を活発にし、ますます大きく発展してきました。これからも発展しつづけるためにも新しいことに挑戦していきたいと考えています。母校との関係は今までもどおり緊密にしながら、これからは地域との関係も更に深めていきたいと思えます。下北沢地域も大きく変わろうとしているなかで、同窓会の存在を示すことができたらいいな、と思っております。

そのためには役員始め会員皆様の自由な発想で「こん

なことをやったらどうか」といったアイデアがなにより必要です。

同窓会の目的に沿うことならどんなことでも結構ですから是非お寄せいただきたいと思えます。重ねてご協力をよろしくお願い申し上げます。

退任の宮川前会長、大村副会長を讃えて

同窓会副会長 臼井良雄 (二十七回生)

四年間会長と副会長を務められました宮川会長と大村副会長とが退任なされ、宮川前会長と大村前副会長は参与になられました。写真は永くお二人を支えた小清水副会長と宮田理事からの総会での感謝の花束贈呈です。長い間本当にご苦勞様でした。

母校の先生を長く務めた宮川先生は私達現在の理事たちがまだ社会人で同窓会の存在も知らなかった頃から、大村さんと同窓会の運営の中心にいらっしやったとかで、その後同窓会役員の若返りを図るべく、多くの自分の教え子たちに声をかけ、かくいう私も宮川先生の強い要請だからという仲間の要請で仕方なく同窓会に出てきた一員でした。

同窓会は発足当初は予算がなく、大村さんは会報を自転車で配って歩かれたそうで、またお二人は学校に行つて卒業生名簿を書き写させてもらい同窓会名簿を作り上げたとも聞いています。

このようにしてお二人が手作りで作り上げた同窓会を今後、も末永く参与として見守つて頂きたいと思えます。長い間、有難うございました。



母校を愛して・・・

同窓会への取組みを振り返る

前同窓会会長 宮川 英子（十三回生）

昭和十七年四月十八日、卒業してしばらくぶりに母校を訪ね、恩師や旧友と出会って喜びに浸っていた私、それはたしか裁縫室だったと思う。それが、クラス会か、同窓会かはそのだかでない。楽しさも一時で、突如、空襲警報が鳴った。「急いで家に帰れ」の先生方の指示で一目散に自宅に逃げて帰った。

昭和十六年に始まった戦争は日毎激しさを増し、昭和二十年五月、母校は戦火に校舎の大半を失なったのだった。

昭和二十三年四月、私は母校東大原に教師として着任することができた。教室不足で、三年生までは二部授業、一時隣接の守山小学校の教室を借りた学年もあった。

私は日々の勤務の中で、卒業以来一度も会う事もない友はどうしているだろう、戦火を逃れて地方へ疎開した友はどんな暮らしをしているだろうと、友を恋う心が募っていった。

昭和三十年代のある日の夕方、勤務を終えて帰宅しようと思っていた時、たそがれてきた校庭に中年の男性がたたずんでいた。

「何か御用ですか」と声をかけた。伺えば、彼は長距離トラックの運転手で日本中を走り回っている。今日はたまたまこの近くまで来たので卒業以来はじめて母校を訪れたとのことだった。「友達はみんなどうしているだろう。校舎もすっかり変わってしまった。」と語りながら、しばし校庭にたたずみ、暮れなずむ校門を静かに出ていった。

私の心の中に、何とかして卒業生の絆を結び合いたいという願いが高まっていた。

昭和三十六年、母校三十五周年を前に、地域に住む先輩の方々から「同窓会を再興しよ



う」との声が高まった。一回生伊藤昇治、二回生岸田義明、六回生加藤清光、土田正人、島山保克、日留川重雄等諸氏が私費を投じて組織づくりを推進された。折よく在職中の私は書記会計から雑務のすべてを引き受けた。

四月一日の第一回設立委員会には、二十六回から三十三回の若い同窓生も十二人参加して再興に若い意見を寄せてくれている。

こうして再興同窓会総会は昭和三十六年六月十一日（日）出席者は四十名ばかりだったが、歓びの中に開催されたのだった。

以来今日まで、歴代会長（岸田義明、加藤清光、山中幸雄、岩下秀男諸氏）のもと、東大原小学校同窓会は、確実な歩みを続けた。

会則、名簿の作成、母校周年行事への協賛、「故きを温ねて」出版と、教育推進のために備品、設備など寄贈してきた。校長室の歴代校長の写真も額とともに寄贈を続けている。

発足当時の私の記録帳はすでにセピア色になつてはいるが、総会時、新入会員のために、映画会、ソフトボール、卓球、バンド演奏などを催している。またある年は、綿あめやおでんの出店を設けた。「母校のプールで泳ぐ会」や「新年羽根つき大会」も開いている。

最近の総会は講演会、演奏会などが主流になつている。平成十四年度創立七十五年記

念総会には当時トヨタ自動車社長の張富士夫氏（二十二回生）の講演をいただき、新入の中学一年生から九十歳の年配会員まで、その人柄と講話に魅了されたのであった。

私は会長を二期四年勤めさせていただき、今年度その任を辞させていただきます。

在任中は、地域、学校の方々、PTA、商店街の方々、おやじの会などの皆様様方、そして同窓会評議員理事の皆様のご協力ご指導ありがとうございました。

また、母校在任十三年間にふれあつた教え子、在校生の皆様には温かいご協力をいただきましてほんとうに有難うございました。

私は同窓会の一番大事な基礎は、若い同窓生をいかにして仲間になつてもらえるかだと思ふ。現状は卒業直後の総会後は、なかなか再び出席してもらえていない。若い人たちが「また総会に行こう」と思ってくれるように、先輩たちが汗を流して楽しい集いを企画していくようにしたいと願う。青少年健全育成の観点からも、もう一度原点に還りたいと思ふ。

一方、一万二千名を超す同窓生の動静はほんの一部しかわかっていない。これからも一人がひとりを探し出して絆をつなぎたい。

クラス会、同期会も一層交流の場として広めていきたい。それがいつか同窓会活動に繋がることを信じて待っている。

現在、世田谷区では学校適正配置の観点から東大原、守山、北沢の三校の統廃合を企画している。母校の校名や校舎が無くなるなんて、こんな淋しいことはない。しかし、いかなる状況になろうとも母校東大原は永遠です。

いついつまでも東大原同窓会の絆を大切にしていきたいましよう。

平成25年度定例総会議事内容

議案第1号 平成24年度事業報告

次頁掲載

議案第2号 平成24年度決算報告

平成25年3月31日

収入の部	予算額	決算額	支出の部	予算額	決算額
会費収入	400,000	554,000	総会費	70,000	84,327
新会員入会金	5,000	4,900	文具等消耗品費	110,000	105,720
懇親会費	60,000	89,000	活動費(*下記)	330,000	415,395
名簿売上	0	1,000	通信費	300,000	293,743
利息	0	151	会報費	300,000	263,970
寄付金	700,000	805,450	振替負担費用	40,000	44,680
記念誌販売	0	0	振替用紙代	0	3,100
当年度合計	1,165,000	1,454,501	当年度合計	1,150,000	1,210,935
前年度繰越金	1,509,837	1,509,837	次年度繰越金	1,524,837	1,753,403
合計	2,674,837	2,964,338	合計	2,674,837	2,964,338

(単位:円)

平成24年度監査報告

決算書類を慎重に監査した結果いずれも
適正且つ妥当なものと同認めます。

平成25年4月1日

監事 礒 正格
吉田 赳
山縣 武夫

議案第3号 平成25年度事業計画

次頁掲載

議案第4号 平成25年度予算案

平成25年度の収支予算案は次の通りです。

収入の部	25年度 予算額	24年度 実績	支出の部	25年度 予算額	24年度 実績
会費収入	450,000	554,000	総会費	50,000	84,327
新会員入会金	5,000	4,900	文具等消耗品費	110,000	105,720
懇親会費	60,000	89,000	活動費	400,000	415,395
名簿売上	0	1,000	通信費	300,000	293,743
利息	0	151	会報費	270,000	263,970
寄付金	700,000	805,450	振替負担費用	40,000	44,680
記念誌販売	0	0	振替用紙代	0	3,100
当年度合計	1,215,000	1,454,501	当年度合計	1,170,000	1,210,935
前年度繰越金	1,753,403	1,509,837	次年度繰越金	1,798,403	1,753,403
合計	2,968,403	2,964,338	合計	2,968,403	2,964,338

(単位:円)

議案第5号 役員改選

①評議員

卒業回	氏名	卒業回	氏名	卒業回	氏名
2	岸田 義明	29	重山 まこと	34	斉藤 耕一
12	岩下 秀男	29	福士 木綿子	34	小山田 忠
12	吉田 赳	30	玉利 勝昭	35	関根 純一
13	宮川 英子	31	岩本 照雄	38	山中 一享
15	礒 正格	32	小清水 和子	46	大木 弘人
17	大村 昭夫	32	宮田 維久子	47	窪田 賢雄
24	野地 勝彰	33	梶川 照矩	48	渡辺 明男
27	足立 遼三	33	神谷 良男	49	鈴木 茂
27	白井 良雄	33	土田 真也	49	田尾 智志
27	大竹 英一	33	益井 純子	58	上原 謙介
27	渡辺 翠	34	漆畑 光一	副校長	大橋 園子
29	杉田 浩	34	大岡 雅子		

②会長・副会長

会長 野地 勝彰 (24回生)
副会長 白井 良雄 (27回生) 小清水 和子(32回生)

③監事

礒 正格 (15回生) 福士 木綿子(29回生) 斎藤 耕一 (34回生)

④参与

宮川 英子 (13回生) 大村 昭夫 (17回生) 山縣 武夫 (18回生)

現在の参与、岸田義明(2回生)岩下秀男(12回生)を加え、参与は5名となります。

⑤理事

大竹 英一 (27回生) 梶川 照矩 (33回生) 小山田 忠 (34回生)
渡辺 翠 (27回生) 神谷 良男 (33回生) 関根 純一 (35回生)
杉田 浩 (29回生) 益井 純子 (33回生) 渡辺 明男 (48回生)
重山 まこと(29回生) 土田 真也 (33回生) 上原 謙介 (58回生)
玉利 勝昭 (30回生) 漆畑 光一 (34回生) 大橋 園子
宮田 維久子(32回生) 大岡 雅子 (34回生) (特別会員 母校副校長)

活動費明細

明細	金額
85周年記念鉛筆	42,781
同窓会文庫	98,211
ホームページ管理費	57,435
震災義援金	30,000
寄付・協賛金・祝金	50,000
新入生・卒業生記念品	126,240
その他	10,728
合計	415,395

四月二十一日に母校体育館に於いて同窓会総会が開催されました。一部では宮川会長、大野名誉会長の挨拶に始まり新入会員(八十六回生)の代表として若々しい太田結花さんと大山ゆうこさんの元気な挨拶があり、引き続き議事に入りました。議事の詳細は上の記録及び四ページをご覧ください。本年は役員改選時期にあたり議事の最後に評議員、役員、監事、新任参与の選出があり、選出された新たな会長と副会長が紹介され、新会長の挨拶がありました。そして宮川前会長の退任挨拶、来賓代表挨拶、校歌斉唱をして総会議事を終了しました。

第二部では二十七回生のポニーキャニオン相談役佐藤修氏によるサッカー人生、レコード業界人生のお話と佐藤さんの個人コレクションによる古い各種音楽再生装置を鳴らして楽しみました。終了後は皆で会場を片づけ、ビールを片手に和気藹藹の時間、同窓会って素晴らしいなと感じた一日でした。

前頁議案第一号にあります昨年度の同窓会活動内容と議案第三号にあります本年度の活動計画に就いて補足説明させていただきます。

平成二十四年度の活動

(一) 会報の作成と発行

年二回の会報作成を実施。第一号は会費納入者対象で千五百部、第二号は五十五歳以上で住所が判明している会員全員を対象で三千部を印刷・発送した。成果として年会費納入者が平成二十三年四百二十六人に比べ、二十四年度は五百二十八人に増加した。(前年比二十四%増)

(二) 母校の教育環境の向上

母校、PTA、おやじの会、校庭開放委員会、商店街、下北沢成徳高校等とのコミュニケーションを図り、各種催しへ参加した。七月七日に行われた母校の八十五周年の式典には宮川会長が出席し学校の変遷の話を児童に行い、記念同窓会名入れ鉛筆を寄贈した。

また入学式、卒業式、学芸会、運動会、餅つき、フリーマーケット、太鼓ライブ鑑賞、その他地域のお祭り、通学パトロール、下北沢成徳高校春高バレーのお祝いに参加した。

また同窓会文庫を、七月に百十三冊、一月に十四冊の合計百二十七冊を寄贈した。創設から合計二百二十二冊の寄贈になる。

また本年度から新しく同窓会員になる卒業生に対して記念品を贈ることとし、『三年日記』を三月二十二日の修了式に贈った。

また新しく一年生になった新入生には、縄跳びの縄を贈った。

(三)同窓生や地域の親睦を図るための事業
親睦ゴルフの会は六月四日、十五人参加で

実施。地域の方々にも参加を頂き、開催した。秋の親睦旅行は十月十四、十五日で箱根に行った。これらは全額個人負担で実施。

(四)その他

東日本大震災の被害者に対する義援金は、昨年度と同額の三万円とし、日本赤十字社を通じて寄付した。

学校統廃合の話が出て以来、同窓会としても説明会へは毎回出席し、同窓会の軌跡を存続させるべく意見を述べている。

平成二十五年度事業計画

(一)会員名簿の作成及び会報の発行

年二回の会報作成とより多くの会員への送付を実施し、会費納入会員の更なる増加を図る。会員名簿の電子データ化は終了したので、今後はきめ細かなメンテナンスを継続する。

(二)母校の教育環境の向上

母校や学校関係諸団体とのコミュニケーションを継続して行う。各種学校関連行事への参加、協賛、同窓会文庫充実、新入同窓会員及び小学校新入生への記念品贈呈を継続する。

(三)会員の福利厚生

会員の親睦旅行と親睦ゴルフは、引き続き実施する。地域の方々を含め、会員の幅広い参加を図る。

(四)その他

地域行事へ積極的に参加し、地域の発展に協力する。大震災義援金は今年度も継続する。
学校統廃合の動きには政治的な動きには巻き込まれないことを前提に、同窓会の軌跡が残るよう働きかけをする。

総会風景



議事運営



新入会員代表挨拶



校長先生挨拶



懇親会



成人会員集合



新入会員集合

第二部 二十七回生佐藤修さんのお話

(司会者) 佐藤さんは昭和二十九年に東大原小学校を卒業し、武蔵中学、武蔵高校、慶応大学ではサッカー一筋で歩まれ、大学を卒業してからは日本ビクターに入社、その後ビクター音楽産業常務、BMGジャパン社長、ポニーキャニオン社長を経て、現在はポニーキャニオンの相談役をなさっています。その間日本レコード協会の会長などの公職を務められた方です。そして多彩な音楽家たちとの交流の傍ら、今に至るまでサッカーを仕事の合間に継続し、日本クラブユースサッカー連盟会長などの公職を務め、現在の日本サッカーの興隆に貢献されています。そして今でも現役でゴールキーパーをして全国のシニアの大会で活躍されています。そんなかっこいい佐藤さんに「お前の人生を語れ」と言いましたら、「俺はそういうのは柄ではない。おれは目の前にあったものにとだけ取り組んできただけだ。だからやるなら俺が趣味で集めてきた色々なレコードの歴史にまつわる品々を持ち込んで、例えば子供たちに時計職人が作ったオルゴールやエジソンの発明した蝋管式蓄音器の音を聞いてもらう講演にしたい」と



いうことで、人生成功の教訓話はなしというところで今日の講演は行われることになりました。サッカーにも音楽にも強い佐藤さん！よろしくお願いします。

(佐藤修さん)

こんにちは！二十七回生の佐藤です。(拍手) 私は下北沢の鎌倉通り沿いの家で育ち一年から六年迄東大原で過ごしました。中学でジャズに目覚め、中・高時代小遣いを貯めてやっと時々栄通りの「村上楽器店」でレコードを買う少年でした。えーと、その二十七回生の一団、ちよつと静かにしないさい。いざとなったら出てもらうからね。(爆笑)

最初の自己紹介は簡単に写真をお見せして終えたいと思います。

まず上右側の写真、なにを言いたいかという男の子は殆ど坊主です。遠足に母親が付いてきていますが着物を着ているという時代です。私は当時坊ちゃん刈りですが、実は一度坊主にしたら凸凹だったので、一回で止めました。

次は中学二年の時の写真です。当時からキーパーをやっていました。見てください。予算がないからネットがボロボロです。そういう時代です。次は大学時代、当時客を一番集めるサッカーの試合は早慶ナイターだったので、その時の釜本、右のキーパーが私です。これは「サッカー」という協会が出していた雑誌の表紙になりました。当時はアマチュアスポーツの方がプロスポーツよりも大事にされていて記事もそちらが多かったのです。

その次は大学選手権で早稲田と決勝戦をやって優勝した時の写真です。嬉しかったですね。

卒業して音楽業界に入りました。上左端は私がレコード協会会長をやっていた時、

俵田來未にゴールドディスク大賞を渡している時の写真です。

下右はピンクレディー解散の時の写真です。

次は私がたけしのスポーツ大賞のサッカーでレギュラーをやっていた時の写真です。たけし軍団では「ジョー」と呼ばれていました。

今度は社会人時代のサッカーの思い出。下三枚目がベツカムと私です。どっちがベツカムか分からないかもしれませんが(笑い)左がベツカムです。これはジーユです。これはラモスです。これはマラドーナです。今のマラドーナとの共通点は体形です。(笑い)

以上で私の紹介は終わりです。今日はお話よりも皆さんがたぶん実際に動いているものは触れたことが無いだろうというものを持つてきましたのでそれを皆さんに聴いて頂きたいということですので、席を立つて出来るだけこちらに集まって見ながら聴いてください。

これは一七〇〇年代にスイスの時計職人が作ったオルゴールです。最初の自動音楽発生装置です。

(鳴らす)ごらんのように一本一本針をシリンドラーに埋め込んで、シリンドラーがゼンマイの動力で回るとその針が楯をはじくという装置です。



これはいつでも好きな音楽を聞きたいということに対応したものでシリンドー式オルゴールと言います。ちなみにオルゴールというのは日本語で、海外では

ミュージック・ボックスと言います。これが時計職人が作った最初の形です。

みなさんこのようなシリンドー式オルゴールの問題点は何だと思えますか？それは製作に一本一本シリンドーの特定の場所に針を刺していかなくてはいけないという非常な労力がかかることで、大量生産が効かない事です。

それで次に出てきたのが円盤型のオルゴールです。(鳴らす)円盤に穴をあけてそれを回転させて、櫛を穴にひっかけて音を出すのです。これは円盤に穴を開ければいいものですから大量生産が効くのです。曲に合わせて円盤を作れば、機械に円盤を掛け替えるだけでどんな



音楽でも聴くことが出来ます。これは一八五〇年頃から始めこれは一八九〇年ごろの製品です。蓄音器が出来てすべて製作されなくなつてしまします。

こんなオルゴールの変遷を経て一八七七年、エジソンが蝋管レコードというものを作りました。聴いてみましょう。(鳴らす)これはこの蝋で出来たレコード、これを蝋管というのですがここに音が刻み込まれているのです。この蝋管レコードの欠点は、何かを百枚製造しようとしたら、この蓄音器を百台ならべておいて演奏し、同時に蝋管に記録しなければならぬことです。

ところが十年後の一八八七年にベルリーナが発明した円盤型蓄音機は一回一枚の円盤に同じような刻み込みを利用して記録してしまえば、それを母型にしてプレスによって何枚でも複製が出来るといので、さっきのシリンドー式オルゴールが円盤式に負けたのと同じようにエジソンのシステムは吹っ飛んでしまいました。エジソンは発明家であり事業家ですが、流石のエジソンもレコードでは負けてしまったのです。これがその時のエジソンの蓄音器の広告看板です。

それではエジソンの蓄音器を駆逐した円盤式レコードをかけてみましょう。(鳴らす)

見てください。これがポピュラー音楽に使うレコード円盤です。十インチです。これに三分間の記録が出来ます。この大きさを三分間なので、欧米のポピュラー音楽や日本の歌謡曲が一曲三分間になったのです。ところが皆さん想像してください。クラシックの交響曲は、十二インチ(三十七センチ)の円盤に一楽章入らないでしょうか。それでこういう風に何枚もの円盤をいれたアルバムを作ったのです。ですから今のLPやCDを一枚でもアルバムと呼ぶようになったのです。

クラシックは一楽章が五分で終わりませんよね。昔NHKで放送が始まったのが一九二五年です。その前にレコード会社がありました。当時は全部生放送でしたから一枚目のレコード演奏が終わるタイミングを見計らつて、もう一台の蓄音器に載せてある次の七十八回転のレコードをぴたり時間を合わせてかけて、聴いている人にはかけかえていいる人を感じさせない達人が放送局にはいたということです。

これはオートマタと言いまして仕掛け人形ですね。

さっきのシリンドー式オルゴールは針でひっかく、円盤式オルゴールも穴でひっつけたのですが、この動力はふいごです。(鳴らす)昔の鳩時計と一緒にです。

これは紙腔琴と言って日本製です。明治二十五年銀座の十字屋で売り出されたものです。(鳴らす)

時間も来ましたので今日はこんなところで終わりたいと思います。(拍手)

追記

四月二十九日の「昭和の日」、嬉しい記事を見ました。佐藤さんが講演直後、春の叙勲で旭日中綬章を受章なさいました。おめでとうございました。



東大原小学校『沿革史 その一』を見て

最近、学校統合等の話があり勉強をしようと思ひ、大野校長先生のご厚意で校長室に永久保存されている東大原小学校の『沿革史』を見せていただいた。

沿革史には昭和二年七月七日の項に「第三荏原尋常小学校と独立改称す」とあり、通学区が、世田谷町大字代田、大字世田谷、大字下北沢と書かれている。

また昭和七年四月一日の項に、「守山小学校設置と共に通学区左の通りとなり、学級数三十一学級となる。北沢三、四、五丁目。大原町、代田二、一部」とある。

そして昭和十二年五月一日の項には「北沢小学校設置につき北沢四、五丁目の児童（三年以下）通学区移動、学級数二十九となる、本校よりの移動者第三学年以下男女四百六十八名」とある。

また昭和十四年四月の項には「守山小学校学級編成の都合上大原町の一部編入と成る。学級数三十」とある。

このような記述を見ると、当時急激に増えた児童数に対処しつつも児童の通学の距離などにかなり神経を使って学区変更などをしてきたことが分かり、今回の学校統合でのきめ細かな学区構成が必要な事を伺わせる。

時代を感じる

記述としては、昭和五年十月二十七日に「教育勅語謄本御下賜」昭和十年十月二十一日「御眞影下賜」とあり、国家主義体制が刻々と高まつてい



ることを感じる。ちなみこの御眞影は校舍焼失後、昭和二十年七月に宮内省に奉還され、教育勅語謄本も吉野国民学校を通じて奉還されていることが分かる。

また「第九 重要事項」という節があつて、それには昭和二年七月の玉川への十六日続けての「夏の里保養水泳復習」の実施から始まつて徽章の制定、学芸会、成績品展覧会、運動会、卒業式、皇室王子誕生の祝賀会などが書かれ、昭和十年には「火災避難演習」昭和十一年には「空襲避難演習」昭和十三年十月には「銃後に備強化週間にて神社遥拝祈願、戦病没者遺家族慰問、第二陸軍病院慰問」がありすでに戦時体制が感じられてくる。

そして昭和十六年十二月九日「英・米に対する宣戦の大詔奉読式挙行」で太平洋戦争がはじまる。昭和十七年までは「戦捷祝賀式」などが何回も催されるが、十八年以降戦局は悪化、昭和十九年八月十三日には「集団疎開学園開設 長野県浅間温泉」とあり、昭和二十年四月十三日の項には「集団疎開学寮再疎開、長野県下伊那郡山吹村、市田村、座光寺村、上郷村、喬木村」とあり、ここで和紙墨筆書きのページが終わっている。

次は洋紙ペン書きで、昭和二十年五月二十五日の詳しい空襲による校舍焼失の記録があり、八月十五日の「終戦の詔ラジオ放送」の記載があり、九月八日には「駐屯部隊が解散」し九月十五日には「寺子屋教育を止め学校での教育を始める。児童百四十二名」とある。

そして二十年十一月七日に市田村児童百三十六名、八日に山吹村児童二十四名、九日には上郷村児童六十三名、十日には「集団疎開最終引揚げ、座光寺村児童百三十七名」とあり二十年十一月十三日の項には「集団疎開解散して学校に復帰する。ただし教室不足のため三年以下二部授業を行う。しかも二年

以下は座学」とあり、二十一年四月には「四年生三学級は守山小学校の教室を借用して授業を行う」とあり、当時の厳しい教育環境の中で関係者が協力して尽くしたことを偲ばせる。

児童数が減少し地域の小学校の統合が議論されている今、苦難の時代を協力して乗り切ってきた歴史を振り返り、お互いに感謝の気持ちを持って守山小学校や北沢小学校との関係を構築していくべきではないかと、東大原小学校関係者の一人として考えさせられた資料ではありましたが。（編集部会白井記）

編集後記

今回の総会では、長年同窓会の中心だった宮川会長の会長退任があり、それを記念して宮川前会長から貴重な同窓会の軌跡にかかわる原稿を頂きました。是非皆さまに読んで頂きたいです。

同窓会への連絡、問い合わせ、寄稿の送付、送金の方法について

同窓会の事務所の所在地は会則では「東大原小学校」となっております。

しかし現状では、学校内で事務を行うことが学校管理上の理由で出来ません。会員各位にはこの点でご不便をお掛けします。

現在の事務所の住所は左記のとおりです。連絡は郵便かFAXでこちらにお願いいたします。

郵便番号 一五五・〇〇三一
世田谷区北沢二丁目三五・九
小清水ビル5F
東大原小学校同窓会事務局
FAX 03-5454-5356

本同窓会は政治・宗教・思想について中立を守ります

平成24年2月から平成25年5月末までの一年間に会費・寄付を頂いた方々(数字は卒業回数、Tは学校及び地域関係者)

8	長谷川	きぬ子	17	大村	昭夫	23	今島	孝子	27	山朝	子	30	依田	子	34	原啓	子
10	川口	恵美代	17	下田	由之	23	不安	澄雄	27	辺翠	子	30	渡重	子	34	小雅	子
11	三宅	喜啓	17	山松	彦三	23	阿部	幹喜	27	田恭	子	30	依重	子	34	岡三	子
11	朝倉	勲	17	小橋	俊昭	24	兄井	部昌	27	明靖	子	30	田越	子	34	平洋	子
11	板干	弘	17	石橋	恵美子	24	星輝	佳平	27	施安	子	30	松尾	子	34	居嶋	子
11	船橋	茂	17	八木	淑江	24	後藤	茂彦	27	根和	子	31	村本	子	34	藤田	子
11	篠嶋	行一	17	多田	美智子	24	石倉	宏理	27	治三	子	31	岩瀬	子	34	村瀧	子
11	嶋植	新一	17	鶴間	久智子	24	野地	一彰	27	田博	子	31	加藤	子	34	小瀧	子
11	植上	美子	17	笹間	薫	24	荒地	勝江	27	立三	子	31	井上	子	34	田加	子
11	甲井	りる	18	田田	精一郎	24	富士	優京	27	井島	子	31	加藤	子	34	小加	子
11	石井	はる	18	富田	功郎	24	福土	昌一	27	吉尾	子	31	守屋	子	34	山崎	子
11	船井	文子	18	富田	芳政	24	山木	克一	27	赤飯	子	31	大石	子	34	福江	子
11	青穴	敏	18	須丸	健	24	山合	中昭	27	佐藤	子	31	石野	子	34	江関	子
11	曾我	康	18	丸山	アヤ	24	合田	賀百	27	渡部	子	31	野村	子	34	田口	子
11	崎康	正	18	石島	喜信	24	山加	賀美	27	島場	子	31	芝谷	子	34	樋井	子
12	松川	平治	18	熱田	信子	24	駒井	香代	27	倉倉	子	31	石井	子	34	川崎	子
12	石下	秀男	18	大西	篤子	24	神谷	智博	27	佐佐	子	31	松本	子	34	山崎	子
12	岩吉	昭雄	18	山縣	夫和	25	三樹	正志	27	大島	子	31	藤掛	子	34	岸野	子
12	吉平	健藏	18	小口	眞子	25	千塚	天辰	27	森野	子	31	松平	子	34	谷中	子
12	本橋	昇雄	18	尾花	八穂	25	渡辺	孝一	27	高橋	子	31	高橋	子	34	真崎	子
12	岡正	男	18	吉田	ヨネ	25	新居	山夫	27	原田	子	31	伊藤	子	34	加藤	子
12	渡谷	美子	18	堀田	達彦	26	菅見	浩一郎	27	岩山	子	31	志賀	子	34	中野	子
12	諸寛	臣	18	今堀	浩子	26	杉持	正夫	27	寺嶋	子	31	安井	子	34	村上	子
12	遠山	裕	18	綾井	儀隆	26	鹿島	マエ	27	桜行	子	31	竹内	子	34	奈良	子
13	高見	昭	19	堀内	貞子	26	斎藤	初美	27	山廣	子	31	小清	子	34	西野	子
13	伊藤	男	19	乾戸	兌子	26	森定	公子	27	伊藤	子	31	木村	子	34	牧野	子
13	澤渡	一	19	野村	幸子	26	佐藤	洋子	27	福新	子	31	塩内	子	34	榎川	子
13	小吉	治	19	河野	文男	26	石川	真子	27	増山	子	31	藤島	子	34	荒川	子
13	大村	彦	20	橋野	喜美子	26	小泉	真子	27	小松	子	31	宮田	子	34	徳神	子
13	三宅	英	20	上野	昭也	26	赤津	信男	27	赤津	子	31	伊藤	子	34	増木	子
13	五郎	治	20	植木	利夫	26	戸崎	紀俊	27	高野	子	31	金井	子	34	藤本	子
13	藤弥	子	20	山鎌	誠二	26	上井	谷一	27	宮村	子	31	川端	子	34	飯島	子
13	前川	子	20	海野	翠	26	高木	志満	27	川江	子	31	青井	子	34	増田	子
13	宮川	子	20	桑原	保	26	榎本	直樹	27	堀立	子	31	今井	子	34	田田	子
13	金刺	子	20	伊庭	一郎	26	三橋	友和	27	足山	子	31	曾田	子	34	増原	子
13	寶西	子	20	宮内	実郎	26	安居	和郎	27	吉井	子	31	川端	子	34	上原	子
13	福島	子	20	志賀	規子	26	大矢	八哲	27	重山	子	31	森野	子	34	本松	子
13	森塚	子	20	春石	じの	27	楠山	次郎	27	伊東	子	31	川野	子	34	村松	子
13	土肥	子	20	崎林	高	27	高橋	修	27	山口	子	31	芦川	子	34	漆野	子
13	山縣	子	20	豊田	宏	27	白井	良	27	松橋	子	31	荒谷	子	34	竹内	子
14	永坂	子	20	佐々	陽子	27	鈴木	郁子	27	大室	子	31	宗神	子	34	野地	子
14	依向	子	20	高橋	昌子	27	高橋	喜美	27	江口	子	31	飯谷	子	34	川野	子
14	三平	子	20	西川	武彦	27	高橋	智和	27	江口	子	31	益田	子	34	中野	子
14	城野	子	20	張妻	尚安	27	小沼	沼子	27	江口	子	31	益田	子	34	大野	子
14	大平	子	20	我丸	西	27	浅山	豊子	27	加藤	子	31	益田	子	34	望野	子
14	宇平	子	20	西岡	巖	27	片野	章子	27	松岡	子	31	益田	子	34	古中	子
14	大矢	子	20	高橋	どり	27	笹野	悦美	27	松岡	子	31	益田	子	34	教中	子
14	宇木	子	20	関美	津子	27	清田	美子	27	竹井	子	31	益田	子	34	藤島	子
14	町野	子	20	美田	弘博	27	藤田	俊之	27	井玉	子	31	益田	子	34	中野	子
14	野重	子	20	園田	至	27	藤野	融	27	須松	子	31	益田	子	34	大野	子
14	磯正	子	20	増田	芳健	27	永大	英	27	岡本	子	31	益田	子	34	望野	子
14	加藤	子	20	吉田	夫	27	岡本	匡	27	宮守	子	31	益田	子	34	望野	子
14	藤洋	子	20	杉山	雅美	27	宮村	則	27	多浦	子	31	益田	子	34	望野	子
14	高見	子	20	徳村	多純	27	宮村	央	27	尾中	子	31	益田	子	34	望野	子
14	高見	子	20	牧野	道	27	尾中	敬	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	岩谷	子	20	秋高	秀	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	伊足	子	20	高橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	立富	子	20	佐	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	富龍	子	20	橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	西健	子	20	橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	中山	子	20	橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	山口	子	20	橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	篠利	子	20	橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	野口	子	20	橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	永上	子	20	橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	上田	子	20	橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子
14	石川	子	20	橋	み	27	香若	子	27	香若	子	31	益田	子	34	望野	子